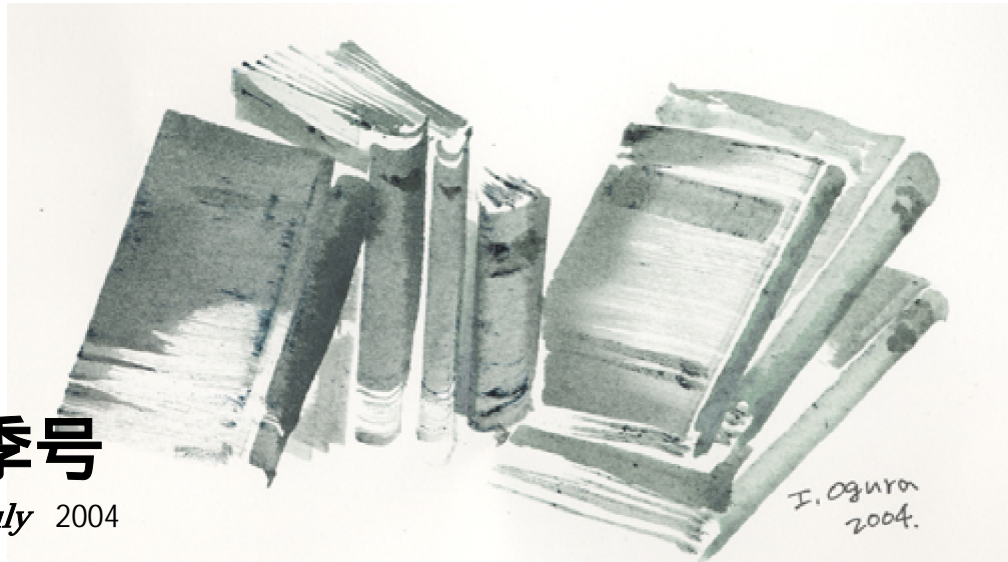


神戸大学附属図書館報

The Kobe University Library Bulletin Vol.14 No.2



夏季号

July 2004

I. Ogura
2004.

目 次

漢籍あれこれ (副館長 森 紀子) p2
自著を語る p4
松田 毅 (文学部教授)	
新福 尚隆 (医学部医学医療国際交流センター教授)	
神戸大学教官著作一覧 (平成15年度後期受入分) p5
<i>Information!!</i> p6
平成15年度附属図書館年次報告を公表	
社会科学系図書館の利用サービス休止のお知らせ	
平成16年度前期試験期間中の開館時間延長のお知らせ p8

漢籍あれこれ

森 紀子

専門が中国史学ということで、私が日頃手にする書籍の多くは漢籍、中国書である。

ちなみに、最近の中国書の出版ラッシュにはすさまじいものがある。ヨーロッパに匹敵する空間スケールをもつ中国大陸の各主要都市で、それぞれに書籍が発行されていることを思えば、その量と種類が圧倒的であることに何の不思議もないが、私の学生時代は、また対照的に中国書の入手がひどく困難だったのである。日中間に国交がなかったということもさることながら、中国本土が文化大革命の真ただ中にあったことによる。中国書専門店の書架はみるみる品薄となり、やがてはあの赤いビニールクロスのも主席語録(当時の価格 120 円)ばかりが目につくという事態になった。京都丸太町の専門店に行っても、店先に店員はおらず、奥の部屋で侃々諤々と文革談義にふけっているという政治の時代であった。中国史専攻の学生達も結構面白がって、“人民, 只有人民, 才是創造世界歴史的動力(人民、ただ人民だけが世界の歴史を創造する動力である)”等々、勇ましい語録のことばで中国語の勉強をしたりしていた。こんなわけで二次文献は大いに不足を来したというものの、当時の中国の歴史研究は日本の学界と方法論を大きく異にしていたから、さほど痛痒を感じることもなく、ひたすら一次文献の漢籍をあさる日々であった。

関西において漢籍の所蔵が豊富なのは、京都大学人文科学研究所(漢字情報研究センター)であろう。前身である東方文化研究所以来の所蔵に加え、明人の文集や地方志など、本来所蔵していなかったものも、東京の内閣文庫をはじめとする複数の図書館のものを影印本として揃えているので、一カ所で閲覧できる分、東京よりも便利だといわれている。閲覧時間が短いのとコピー代が高価であること、閉架式なので漢籍目録やカードを調べて閲覧請求するという窮屈さはあるが(これは東洋文庫、内閣文庫等全国の図書館に共通)、とにかくそこにしかないということで、卒論、修論の執筆時には日参して、随分お世話になったものである。

神戸大学の図書館には経済関係の文献資料など、他大学にない貴重なコレクションも豊富にあるが、漢籍の類はあまり充実しているとはいえない。中国史を専攻する学生には、やはり豊富な漢籍の蒐集状態を目にしてほしいと思い、2、3年に一度は東洋史専修の学生・院生を連れて京都まで見学に行くことにしている。前もって申し込んでおけば普段は中に入れない書庫を見学させてもらえるし、永楽大典の抄本や重文級の貴重書、牙帖等の歴史文書も披露してもらえる。今年は6月10日に14人の学生が参加して見学会を行った。

最近は電子ジャーナルも普及しつつあり、ネットで中国の“超星”システムと結べば、かなりの出版物をパソコン画面で目にもすることも可能である。また、原本では句点もなく、ひたすら漢字が詰まっている漢籍も、横書き、簡体字の標点本が陸続と出版され、随分読みやすくなっている。でも、たまには美しい版刷りの、あるいは上等な紙に見事な肉筆の楷書が納まり、糸で引いた罫線の下方にわずかながら朱墨の滴りが見て取れるというような書籍を手にするのも眼福といえよう。

さて、漢籍には四部分類という独特な分類法がある。経(儒教の經典関係)史(歴史関係)子(諸子百家等)集(個人の文集等)という4つの区分は、さながら伝統中国の知の大系とでもいうべきものであり、筆頭におかれた経には、正統規範としてのゆるぎない位置づけがなされている。この四部分類がゆらいだのは清末である。欧米からの科学の輸入は四部に納められない新しい知の領域を現出させた。また、文化大革命の儒教批判も経部に対して再考を促した。1975年、私が初めて訪問した上海図書館での座談会の席上、儒教經典に代えてマルクス・レーニンの著作を経として図書分類をやり直さなければいけないと、館長が問題提起したのがまことに印象的であった。政治が図書分類にまで影響するという、我が国ではいささか理解しにくい現象であった。

(もり のりこ 副館長)



京都大学 人文科学研究所 漢字情報研究センター

『ライプニッツの認識論 - 懐疑主義との対決 - 』松田毅著

(創文社 2003.12)

ライプニッツ(1646-1716年)は、数学を始めとした諸学問の領域で多くの画期的業績を残した「万能の天才」の最後の一人と言われることがあります。西洋哲学に多少の知識のある方なら、「普遍学」、「モナド」、「予定調和」などの言葉を耳にされたこともあるのではないのでしょうか。私が試みたことは、その哲学を一貫して「認識論」として読解することです。認識論は存在論と並ぶ哲学の重要な柱の一つですが、

二〇世紀のライプニッツ解釈は論理学を中心に動いてきた歴史がありました。私は、従来の研究では見逃されていた切り口として「知識の本性とその可能性の根拠」を解明する課題を担う認識論を設定したわけです。本書が西洋の精神史研究への刺激となると同時に、懐疑主義あるいは認識論という哲学の「永遠の問い」へのささやかな橋渡しとなることを願っています。

(なおこの著作は、日本学術振興会、平成15年度科学研究費補助金、研究成果公開促進費による出版です。)

(まつだ つよし 文学部教授)

所蔵:人文科学図書館 134-1-MAT



—自著を語る—



『国際共生と健康』新福尚隆ほか編著 (放送大学教育振興会 2004.3)

国際交流が、日常的に行われるようになった21世紀において、いくつかの国のみが豊かで、極度の貧困に悩む国が多く残されていると言うのは、人道的にも許される事ではありません。現在、数百万の子供が、毎年、簡単に予防できる肺炎、気管支炎、下痢症で死亡しています。その一方で、先進工業国では、肥満が健康の大きな危険因子になっています。生命、健康における南北格差は、簡単には解消されません。貧困の撲滅、開発途上国における健康問題の軽減は、同情だけでは役に立ちません。国際共生という言葉キーワードにして、地球的規模での健康の問題、世界的な視点での対策、我が国の国際医療協力のあり方などを纏めたものが本書です。内容は、放送大学の15回の講義ですので、15のテーマに分かれています。

本書では、世界の異なる国々での健康問題、WHO等の国連機関等による活動、日本の国際医療協力、人口の増加と世界の健康問題、感染症対策、母子健康、プライマリーヘルスケア、災害医療、難民の保健医療問題等の章を含んでいます。国際保健、国際医療協力を長年携わって来られた専門家の方々をお願いしてそれぞれの章を担当いただきました。保健医療関係者のみならず、開発途上国の貧困問題、日本の国際援助などに興味を持たれる方々にも是非、読んでいただきたいと思います。

(しんぶく なおたか 医学部医学医療国際交流センター教授)

所蔵:医学分館 498.04-S

神戸大学教官著作一覧（平成15年度後期受入分）

平成15年度後期（10月～3月）に図書館に受入した本学教官著作を紹介します。紹介著作は2003年1月以降に出版された、単独著、共著、編著の図書としました。

部局名	著者	書名等	受入図書館
文学部	大津留厚ほか著	民族(ミネルヴァ書房 2003.11)	人文科学図書館
	松田毅著	ライブニッツの認識論 (創文社 2003.12)	人文科学図書館
	佐々木衛著	費孝通 : 民族自省の社会学 (東信堂 2003.10)	人文科学図書館
	宮下規久朗著	バロック美術の成立 (山川出版社 2003.10)	人文科学図書館
	岩崎信彦ほか編	海外における日本人、日本における外国人 (昭和堂 2003.2)	人文科学図書館
	松本曜編	認知意味論 (大修館 2003.7)	人文科学図書館
	西川杉子著	ヴァルド派の谷へ (山川出版社 2003.5)	人文科学図書館
	呉曉東ほか著	新世紀の中国文学 (白帝社 2003.7)	人文科学図書館
国際文化学部	細谷広美編著	ペルーを知るための62章 (明石書店 2004.1)	総合・国際文化学図書館
	木庭宏著	ハイネのおしゃべりな身体(からだ) (松籟社 2004.2)	総合・国際文化学図書館
発達科学部	播磨俊子・佐藤眞子ほか編	カウンセリングを学ぶ人のために (世界思想社 2003.10)	人間科学図書館
	津田英二ほか編著	生涯学習の支援論 (学文社 2003.4)	人間科学図書館
	松岡廣路ほか編著	生涯学習と社会教育 (学文社 2003.4)	人間科学図書館
	田畑暁生著	映像と社会 (北樹出版 2003.7)	総合・国際文化学図書館
法学研究科	阿部泰隆著	政策法学講座 (第一法規 2003.8)	社会科学系図書館
	阿部泰隆ほか著	消防行政の法律問題 (近代消防社 2003.6)	社会科学系図書館
	伊藤光利編	ポリティカル・サイエンス事始め 新版 (有斐閣 2003.10)	社会科学系図書館
	近藤光男ほか編	新しい株主代表訴訟 (弘文堂 2003.7)	社会科学系図書館
経済学研究科	足立正樹編著	各国の社会保障 第3版 (法律文化社 2003.10)	社会科学系図書館
	加藤弘之著	地域の発展 (名古屋大学出版会 2003.6)	社会科学系図書館
	羽森茂之著	An Empirical Investigation of Stock Markets (Kluwer 2003.8)	社会科学系図書館
経営学研究科	伊藤嘉博編著	バランス・スコアカード実践ガイド (日科技連 2003.2)	社会科学系図書館
	小川進著	稼ぐ仕組み (日本経済新聞社 2003.6)	社会科学系図書館
	金井壽宏編著	会社と個人を元気にするキャリア・カウンセリング (日本経済新聞社 2003.8)	社会科学系図書館
	古賀智敏編著	ファイナンス型会計の探求 (中央経済社 2003.12)	社会科学系図書館
	榊原茂樹ほか著	現代の財務管理 (有斐閣 2003.11)	社会科学系図書館
	清水泰洋著	アメリカの暖簾会計 (中央経済社 2003.8)	社会科学系図書館
	内藤文雄著	財務諸表監査の変革 (税務経理協会 2003.8)	社会科学系図書館
	原田勉著	MBA 戦略立案トレーニング (東洋経済新報社 2003.5)	社会科学系図書館
	桜井久勝ほか編著	知的財産の証券化 (日本経済新聞社 2003.10)	社会科学系図書館
	奥林康司編著	成果と公平の報酬制度 (中央経済社 2003.7)	社会科学系図書館
	黄リン著	新興市場戦略論 (千倉書房 2003.6)	社会科学系図書館
	桜井久勝著	財務諸表分析 第2版 (中央経済社 2003.3)	社会科学系図書館
理学部	野呂正行ほか著	計算代数入門 (東京大学出版会 2003.6)	自然科学系図書館
	高山信毅ほか編	Algebra, Geometry, and Software Systems (Springer 2003)	自然科学系図書館
医学部	春日雅人ほか編	臨床検査データブック 第2版 (医学書院 2003.10)	医学分館
	杉村和朗ほか編	臨床医のための腹部血管造影・IVR (新興医学出版社)	医学分館
	正井栄一著	医学・保健学のためのやさしい統計学 (金原出版 2003.2)	保健科学図書室
工学部	河村廣ほか著	性能型構造設計入門 (培風館 2003.4)	自然科学系図書館
	安達泰治ほか著	生体細胞・組織のリモデリングのバイオメカニクス (コロナ社 2003.3)	自然科学系図書館
	藤井照重編著	コージェネレーションの基礎と応用 (コロナ社 2003.3)	自然科学系図書館
農学部	眞山滋志ほか著	新編植物病理学概論 改訂第6版 (養賢堂 2003.10)	自然科学系図書館
海事科学部	杉田英昭ほか著	詳説船用蒸気タービン 上巻 2訂版 (成山堂 2003.4)	海事科学分館
国際協力研究科	土佐弘之著	安全保障という逆説 (青土社 2003.9)	社会科学系図書館
経済経営研究所	山地秀俊編著	アメリカ不正会計とその分析 (神戸大学経済経営研究所 2004.2)	社会科学系図書館
	小西康生編著	Local Currencies (神戸大学経済経営研究所 2004.2)	社会科学系図書館
	片山誠一ほか編	New Development in International Trade (神戸大学経済経営研究所 2003)	社会科学系図書館

Information!!

平成 15 年度附属図書館年次報告を公表

附属図書館では新たな試みとして、平成 15 年度図書館事業の概要をまとめて簡単な自己評価を付した「年次報告」を作成しました。その全文は、図書館ホームページにて公開しています。

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/overview/>（図書館トップページからも入れます）

本欄では以下、ごく簡単に内容を紹介します。詳細については、ぜひホームページをご覧ください。

1．学習・教育支援

開館サービスについては、時間外開館（夜間・休日）を従来通り行いましたが、限られた予算内でどう効率的に拡大・維持をはかるかが課題となっています。

学生用資料整備については、全学経費（政策的経費）の措置をいただき、総合図書館に新刊書約 3,200 冊を購入するなど一定の整備が行えました。魅力ある開架書架を継続的に提供していくためには、予算の安定的確保と収集体制の整備が課題となります。

資料提供サービスの面では、貸出冊数が学生一人当たり約 12 冊となっており、前年とほぼ同水準です。情報リテラシー教育支援サービスについては、「情報の探し方ガイダンス」等をかなりの回数開催しましたが、必ずしも十分な参加者を集められていません（16 年度は必修科目「情報基礎」に図書館が参加し、全新生にガイダンスを行います）。図書館ホームページのアクセス数は順調に伸びていますが、各種ニュースの告知効果など見直し課題もあります。

総合図書館の椅子・机更新、社会科学系図書館大閲覧室の絨毯取り替えなど、予算の範囲で設備・機器の整備をはかりました。また、社会科学系図書館と医学分館に自動貸出装置の導入を行っています。

2．学術研究支援

研究用図書資料については、各部局からの予算拠出に依存していますが、厳しい財政状況のもとで総資料費・購入冊数とも平成 11 年ごろをピークとして年々減少傾向にあります。

電子的情報基盤については、電子ジャーナルのアクセス可能タイトル数は着実に増え（約 5,000 誌）また Web of Science 自然科学分野の導入が実現するなど一定の整備をはかることができましたが、予算面では非常に厳しい状況にあります。

蔵書目録データベースの整備については平成 4 年度来目録遡及入力事業を進めていますが、15 年度は 10 万冊を超える入力を行いました。その他研究支援サービスとしては他大学等との相互利用がありますが、海外との相互利用拡大などが課題です。

3．情報発信・社会貢献

市民公開については、地域住民に資料貸出を行う大学図書館は増加しており、本学でも検討しましたが、16 年度からの導入は見合わせました。一般公開を行っている震災文庫（阪神・淡路大震災関係資料文庫）は、今なお資料が増え続けており収集に尽力しています。

「神戸大学電子図書館システム」による情報発信については、引き続き震災関係資料、経済関係資料（新聞記事文庫、住田文庫）、学内教育研究成果資料（解剖学教科書、王敬祥文書ほか）のデジタル化・公開を推進しました。安定的な経費確保が今後の課題です。

4．組織機構・管理運営等

組織機構については、神戸商船大学との統合、国立大学法人への移行、と大きな変化が続きました。統合（15 年 10 月）に際しては海事科学部分館（現・海事科学分館）を設置しました。法

人化に際しては、総合図書館・6 専門図書館・2 分館・1 図書室からなる図書館組織として再編成を行うとともに、副館長の役割の見直しなど運営体制の強化をはかりました。また、統合・法人化にあたって図書館システムの移行や資産データベースの整備を行っています。

施設整備については、社会科学系図書館の増築工事が順調に進捗しています。その他、人間科学図書館の集密書架増設、自然科学系図書館の改装等、限られた条件の範囲内で空間の有効利用をはかりました。

16 年度に入って附属図書館では「評価委員会」を設置し、よりいっそうの評価・点検活動を進めていく予定です。

(企画係)

社会科学系図書館の利用サービス休止のお知らせ

社会科学系図書館の増築工事完了に伴う資料の移転作業等のため、下記のとおり利用サービスを休止します。利用者みなさまには大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

(社会科学系情報サービス係)

開館日と開館時間

期 間	8月2日(月)～9月30日(木)	
開館時間	平 日	9:00～17:00
	土・日・祝日	休館
全面閉館	8月30日(月)～9月10日(金)	

期間中、閲覧室は「大閲覧室」のみが利用できます。

また、資料の利用は「和・洋の新着雑誌」のみの利用となり、図書・製本雑誌の利用はできません。詳細は次のとおりです。

期間中の利用制限等

利用制限区画	期 間
大閲覧室の閉鎖	7月26日(月)～7月30日(金)
外国雑誌センターの閉鎖	7月26日(月)～9月30日(木)
震災文庫の閉鎖	7月26日(月)～9月30日(木)
開架室、書庫の閉鎖	8月 2日(月)～9月30日(木)

夏季特別貸出の期間と貸出限度冊数

	冊 数	期 間	返却期限
学部生	20冊	7月16日～9月30日	10月12日
院 生	40冊 開架図書:6冊	6月9日～9月30日	10月12日

リニューアル・オープンは10月1日(金)を予定しています

増築区画には、開架閲覧室、震災文庫、雑誌バックナンバー書庫等を移設し、利用環境の改善、資料収容力の確保など図書館機能の整備改善を図ります。

平成16年度前期試験期間中の開館時間延長のお知らせ

前期試験期間中、次の図書館において開館時間の延長を実施します。

実施図書館	実施期間	開館時間
総合・国際文化学図書館	7/22(木)～7/29(木)	平日 9:00～21:00 土・日曜 12:30～17:00
社会科学系図書館	7/13(火)～7/30(金)	平日 9:00～21:00 土・日・祝日 11:00～18:00
自然科学系図書館	7/13(火)～7/29(木)	平日 9:00～21:00 土・日・祝日 12:30～17:00 7/15(木) 13:00～21:00
人文科学図書館	7/22(木)～7/29(木)	平日 9:00～21:00 土・日曜 12:30～17:00
人間科学図書館	7/21(水)～7/29(木)	平日 9:00～21:00
海事科学分館	7/17(土)～7/29(木)	平日 9:00～21:00 土・日・祝日 10:00～18:00

(情報サービス課)

附属図書館日誌(2004年4月～6月)

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 4.9 館長・副館長・分館長懇談会(自然科学系図書館) | 自然科学系図書館) |
| 4.12-15 情報の探し方ガイダンス<入門編>(総合図書館) | 5.19 外国雑誌センター館会議(東京工業大学) |
| 4.22 兵庫県大学図書館協議会役員会・企画委員会(自然科学系図書館) | 5.21 国立大学図書館協会理事会(東京大学) |
| 4.23 国立大学図書館協会近畿地区総会(京都大学) | 5.21-7.15 図書館ガイダンス(全学共通教育科目「情報基礎」) |
| 4.26-28 附属図書館初任者等研修(自然科学系図書館ほか) | 5.27-28 NPO日本医学図書館協会総会(学術総合センター) |
| 5.7 近畿地区医学図書館協議会例会(近畿大学) | 6.7-11 情報の探し方ガイダンス<中級編>(自然科学系図書館) |
| 5.10-14 情報の探し方ガイダンス<初級編>(自然科学系図書館) | 6.7 兵庫県大学図書館協議会企画委員会(神戸親和女子大学) |
| 5.11 平成16年度第1回附属図書館運営委員会(自 | 6.11 第73回近畿地区国公立大学図書館協議会総会(国際日本文化研究センター) |

[編集後記]「文月や六日も常の夜には似ず」7月の夜っていうのは、たとえ(七夕じゃなくて)6日の夜であっても、やっぱりいつもの夜とはちょっと違うねえ、という芭蕉翁の発句です。そんな7月の夜にあえて一人書物を紐解こうというならば、ぜひ図書館にお越し下さい。蛍の明かりで読むよりは、幾分快適にご利用頂けます。保健科学図書室と経済経営研究所図書館を除く各館は、試験期間中の平日なら21時まで開館です。

神戸大学附属図書館報Vol.14 No.2(通巻第54号)2004(平成16)年7月1日発行

[編集・発行]神戸大学附属図書館 神戸市灘区六甲台町2-1(〒657-8501)電話(078)881-1212(代)